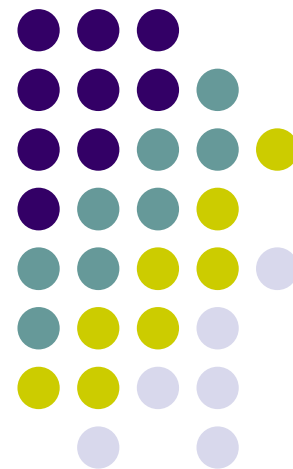
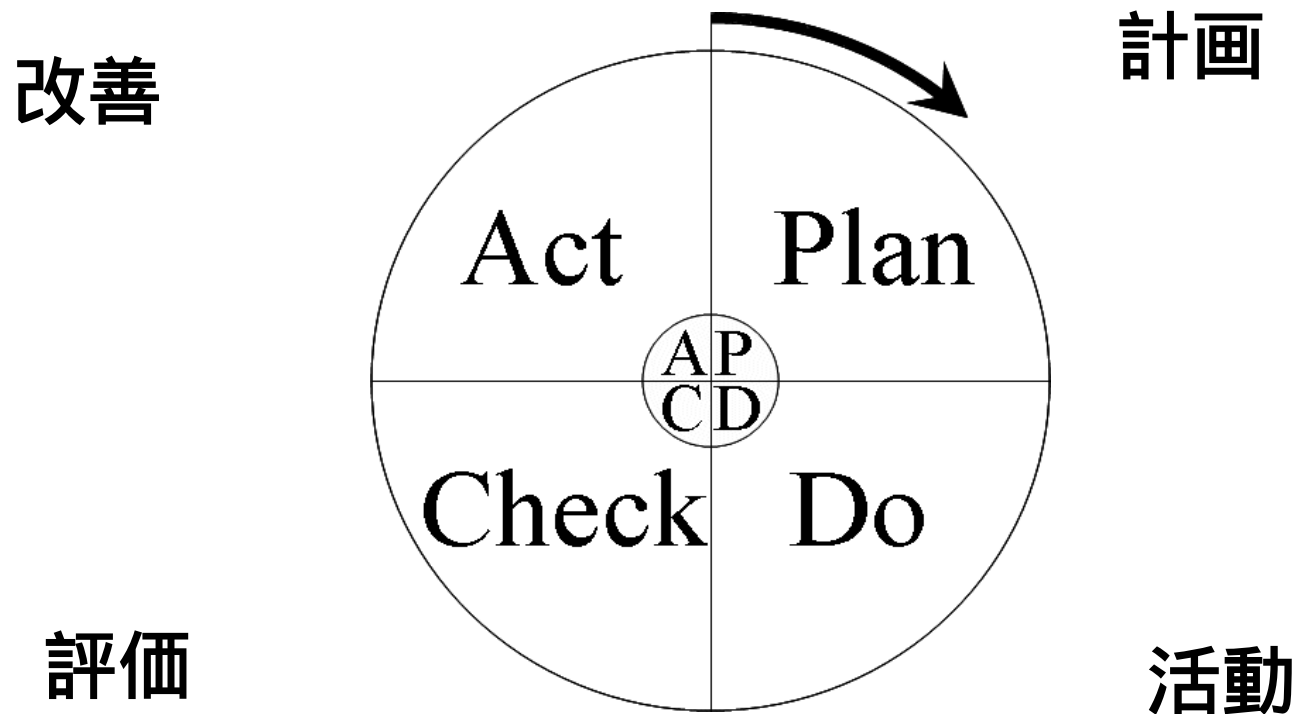
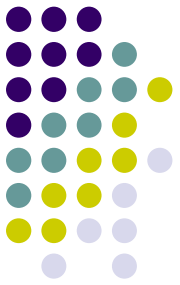


# 学術情報リテラシー教育 と評価

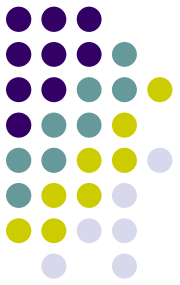
H20学術情報リテラシー教育担当者研修  
2008年10月23日 大阪, 11月20日 東京  
慶應義塾大学理工学メディアセンター  
上岡 真紀子



# マネジメントにおける評価の位置づけ



# サービスの評価



良いと思ったのに、売れなかった製品・  
サービス

顧客の視点導入の必要性



誰が製品・サービスを評価するのか？  
顧客しか評価することはできない

# 量的評価から質的評価へ



インプット・アウトプットによる評価：量で測る

ex. 実施回数, 参加人数

参加者が多ければよい？

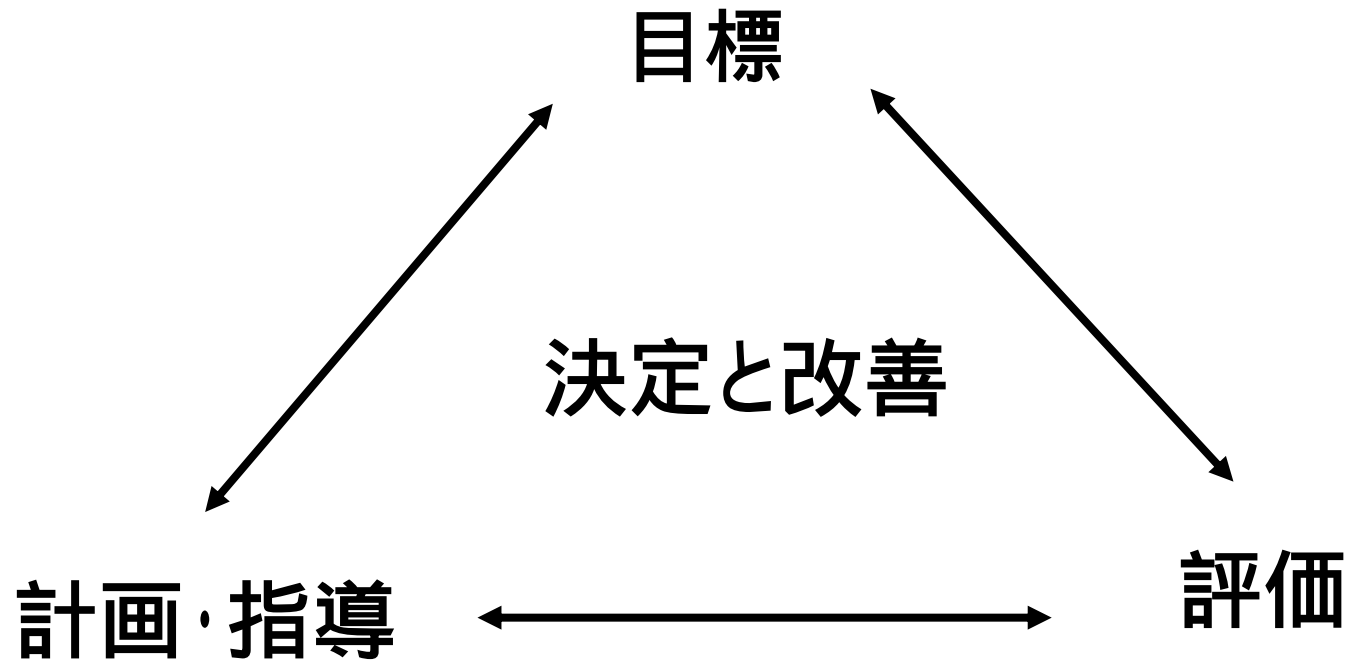
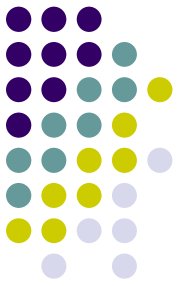


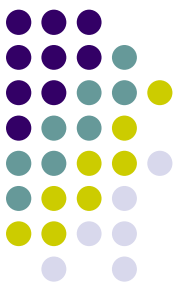
成果(アウトカム)評価へ：効果を測る

ex. 満足度調査, サービス品質調査

学習効果調査

# 教育システムにおける 評価の位置づけ

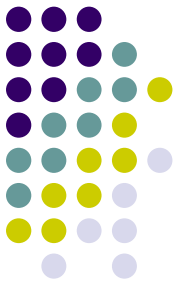




# 測定から評価へ

- 教育とは、人の行動パターンを変化させ改善していく過程である
- このような種々の行動パターンの変化が教育目標である
- 教育プログラムは、この教育目標がどのくらい実際に達成されたかを見ることによって評価される
- 人の行動は複雑であるからその評価も様々な面からなされる必要があり、また分析的にだけでなく総合的に評価される必要がある
- 評価法としても、紙と鉛筆のテストだけでは不十分であり、行動観察などを含む広い方法が用いられるべきである

# 教育評価



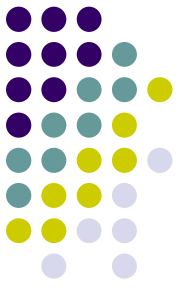
教育活動の立案・遂行・成果に直接的，間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを含む

ex. 学習者，教育活動，教育環境，カリキュラムや  
教材，教育の組織・運営

## 基本的観点

- 教育目標の方向へ向かって，学習者がどの程度成長・発達したか
- それに対するそれぞれの貢献度がどの程度のものか

# 評価のタイミング



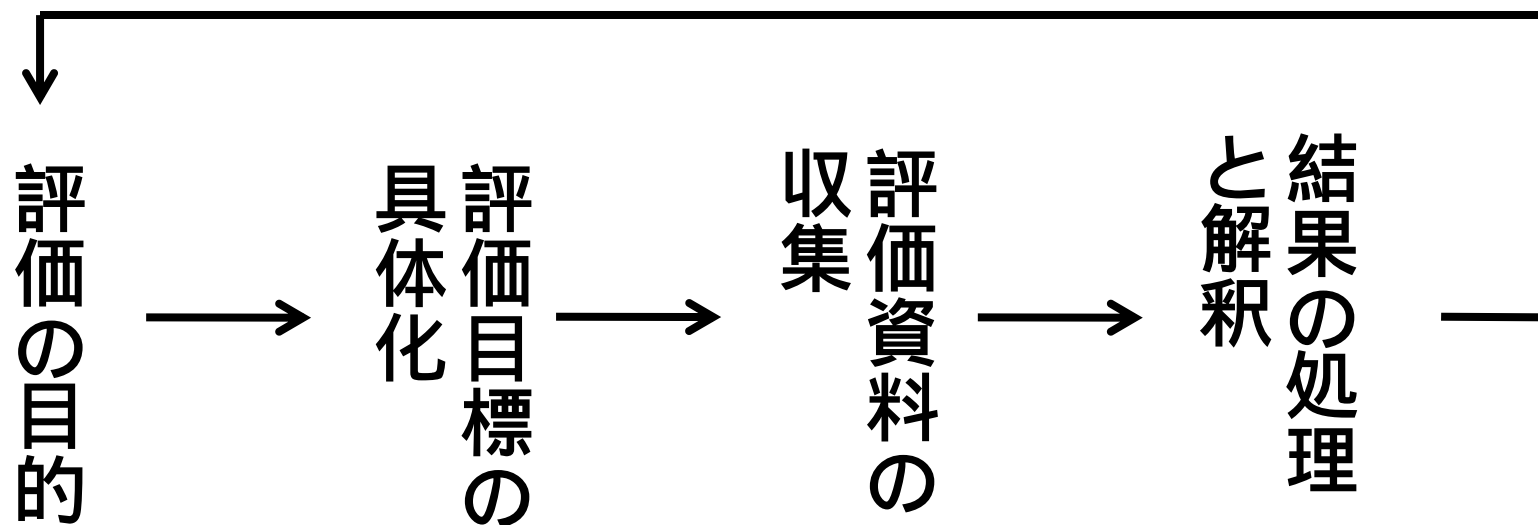
- 事前的评价
  - 活動の開始前に企画を適切なものにするために行う
- 形成的評価
  - 活動中に、活動を最も効果的なものに軌道修正するために行う
- 総括的评价
  - 活動の成果を把握するために行う



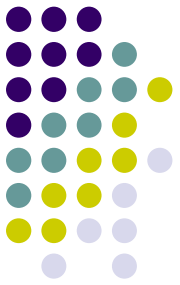
# 教育評価の手順



## 利 用

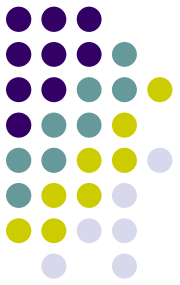


# STEP 1: 評価の目的の確認



- 何のために評価を行うのか？
  - ・ 管理や運営の改善, 方向付け
  - ・ 指導や教授の改善, 方向付け
  - ・ 学習者自身の学習や努力の方向付け
  - ・ 調査, 研究

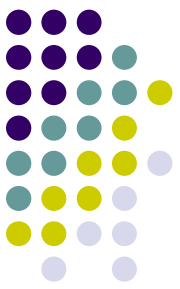
# STEP 2 : 評価の目標の具体化



- 目標を書き出してみる

ex.

- 記事索引データベースとはどのようなもので、どのようなときに利用するのかを理解する
- CiNiiの基本的な利用方法を知る
- 検索結果の書誌事項を理解する
- それぞれ、どのような能力なのか  
= 知識・スキル



# 評価目標と評価方法

## < 目標 >

- 関心・興味
- 知識・理解
- 思考
- 態度
- 技能

## < 評価方法 >

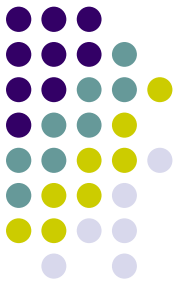
- 標準テスト
- 教師作成のテスト
- 質問紙(自己評価票を含む)
- 面接(問答法)による評価
- 観察記録による評価
- レポート・作文による評価
- 製作物や実演による評価

# 評価側面と評価方法



	興味・ 関心	知識・理 解	思考力・ 論理力	態度	技能
標準テスト					
教師作成テスト					
質問紙法					
面接法					
観察記録法					
レポート法					
製作物法					

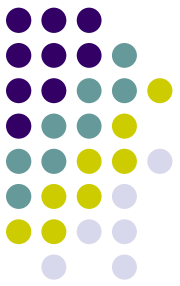
# STEP 3 : 評価資料の収集



- 評価するのに必要な資料(データ)を収集する  
どの評価方法が適当かを考える  
ex. 知識・スキルを測るには？



教師作成テスト, および  
観察の実施



# 事例: テスト

- 嘉悦大学(2003)  
調査対象: 1年生の必修科目「基礎ゼミナール」の受講者

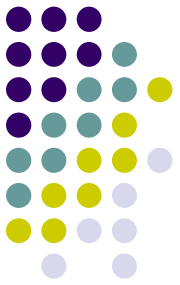
## 問題例:

「中小企業」についての図書を探す場合, どのように探しますか? 方法を順をおって, できるだけ詳しく書いてください。

## 評価方法:

- 1) OPACを開く
- 2) OPACを「中小企業」というキーワードでひく
- 3) 請求記号, 所在を調べる
- 4) 書架に取りに行く

このうち, いくつかのステップを踏めているかを点数化して受講の前後で比較



# 事例: テスト

- ICU(2005)

調査対象: ELP履修者である1年生と2年生

問題例:

1. ICU図書館の資料はどのような順番で並んでいますか

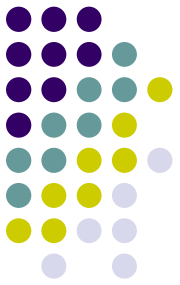
ア) タイトルのアルファベット順

イ) 図書番号順

ウ) コールナンバー順

評価方法: プログラム受講前と受講後の点数(平均点)を比較





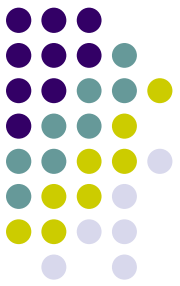
# 事例：観察

- 実習・課題への取り組みを観察



\* 即時のフィードバック  
も可能

評価方法：予め準備したチェック項目や基準  
に照らし合わせて評価する



# 事例：質問紙(アンケート)

ex.

- 所要時間

丁度良い 短すぎる→( )分程度がよい 長すぎる→( )分程度がよい

- 説明方法

よく分かった 普通 分かりにくかった→(どこが: )

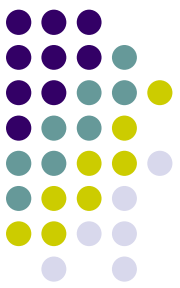
- 内容

多い→(不要なのは: ) 丁度良い 少ない→(必要なのは: )

- 今回の説明は今後のために

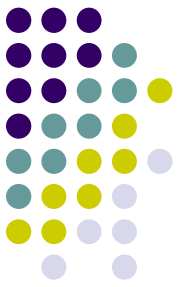
非常に役に立つ 役に立つ 普通 あまり役に立たない 全く役に立たない

## 評価方法：数値化



# 事例：面接（インタビュー）

- 「情報リテラシー入門」はどうだった？  
「正直出てない人の方が多かった。課題だけやって終わらせた人もいるし。私はなんだかよくわからなかったです。（内容が難しかった？）う～ん、記憶にないからそこまで印象にないのかな。普通のことを言われた記憶があります。」  
「いきなり検索のコツみたいのがあって、課題も面倒くさくて、そんなことしなくても別の方法で情報は得られるし、みたいな感じで。入門的なことすぎたのかなと。」  
「図書館をより効率よく、本を検索できるようにということだったら、あれが限界かなと思いますけど。」



# 事例：面接（インタビュー）

- 館内ツアー，OPACセミナーって知ってる？  
「青いのにいつも貼ってませんか？ やってるんだと思うんですけど，参加はしていません。（なぜ？）ちょっとお堅いっていうか，そこまでしてなのかなっていうふうに思っちゃうし，ツアーだと話が長いだろうなっていう，抵抗感があります。」  
「あんまりそこまでして。多分自分でわかるだろうと。」  
「趣旨がよくわかりません。その場でわからなかったら聞けばいいので。」

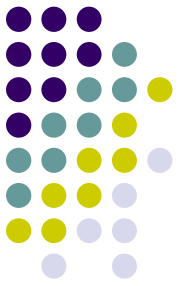
評価方法：質的データ（言語データなど）の分析方法に基づいて分析し，評価する。

# 評価方法の特質



	実態把握の深さ	評価の客観性
標準テスト	×	
教師作成テスト	×	
質問紙法		
面接法		
観察記録法		×
レポート法		×
製作物法		×

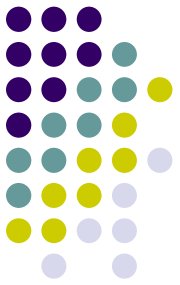
# 情報リテラシー能力



- 知識・スキル, 批判的思考力, 判断力, 論理的思考力, 表現力, 総合的問題解決力...  
= 情報リテラシー能力は, 高次の能力を含む

知識やスキルがあるからといって,  
情報リテラシーがあるといえるのか?  
高次の能力はどのように測るのか?





# 真正の評価

➡ もっと真正(本物)の評価を！

ex.

- レポート法
- 製作物法

ex.

- ポートフォリオ(多様な学習成果の集積)
- ルーブリック(言語表現と事例による評価)

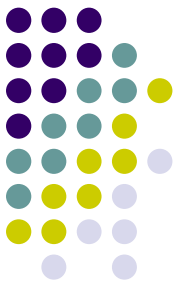


# 事例：レポート

(自分でテーマを設定し,)テーマについて述べなさい。

評価方法：予め準備した基準によって評価する  
(内容, 論理の正しさ, 参考にした資料の質, 参考文献の記載の有無など)





# 事例：ポートフォリオ

- 横浜市立大学(2007～)  
「教養ゼミA」と図書館の連携
  - A.問題関心の設定
  - B.資料の探索・収集
  - C.資料の読み込み
  - D.発表・討論
  - E.レポート作成

内容の進行に沿ってレファレンスで支援

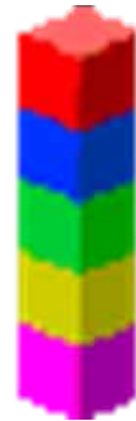
「レファレンス受付票」

個人の調査の進捗，調査履歴(DB名など)，習得スキル，相談内容，指導内容を記載し保存



# まとめ

- 情報リテラシー能力を評価するための最良の唯一の方法はない
- 複数の評価方法を組み合わせる、
- 評価の経験を積みましょう！



ありがとうございました。